

令和2年度 学校関係者評価委員会の報告(案)

学校関係者評価委員会 委員長 黒木 美枝

令和2年度の学校関係者評価の結果、以下のとおり報告いたします。

I 重点目標について

富士中では、重点目標として『時代の要請に応じた学力向上に取り組み、学びの充実を図る』『自らを律し、他者に貢献する行動力を高める』『心身の健康に努め、自分が属する集団への愛情と誇りを育てる』の3点を挙げ、それぞれに数値目標を設定しています。

『時代の要請に応じた学力向上に取り組み、学びの充実を図る』では学校関係者評価アンケート生徒独自項目『わたしは、意欲的に学習に取り組み、よく考えようとしている。』の肯定的評価80%以上を目指しています。生徒の肯定的評価は73.4%で前年を4.7%下回り、「思わない」「わからない」の回答が5.9%増えました。目標値を前年度より5%引き上げた事もあり、クリアできませんでしたが、「とても思う」の数値は3.5%増えています。また、生徒の『先生は、わかりやすい授業をしている。』の肯定的評価は90%以上の数値で高評価です。引き続き細やかな対応と、生徒自ら考え、課題解決を図ろうとする授業創りをお願いします。

『自らを律し、他者に貢献する行動力を高める』ではアンケートの生徒独自項目『わたしは、自分を支えてくれる人々に感謝し、地域に貢献しようという気持ちが強まった。』の肯定的評価80%以上を目指しています。生徒の肯定的数値は75.6%で前年度よりわずかに減少し、届きませんでした。しかし、『私は、ルールを重んじ、他者を思いやろうとしている。』と『私は、富士中生の一員としてよりよい学校生活や人間関係を築こうとしている。』では生徒の肯定的評価は80%以上です。『ノーチャイム制は、時間を意識させる心をはぐくむ取り組みだと思う。』でも87.3%と、高い数値を示しています。他者に貢献できる基盤は育まれていると読み取れます。目標まであと少しです。「自律」と「貢献」を意識した富士中プライドの醸成に期待します。今後も地域と連携したボランティア活動や体験活動への啓発を進めて下さい。

『心身の健康に努め、自分が属する集団への愛情と誇りを育てる』では、学校関係者評価アンケート生徒対象『自分の通学している中学校が好きである。』の肯定的評価80%以上を目指しています。今年度は『学校生活は、楽しい。』の設問に集約されています。生徒の肯定的評価は83.7%で昨年度より10.3%増え、目標をクリアしています。「思う」から「とても思う」に転じた数値は20%でした。更に、否定的だった数値は10.4%減り10%台になりました。保護者の『本校の学校生活は子どもにとって楽しい。』の肯定的評価も83.1%で、ともにクリアしています。学校に通えない異例の期間があったにもかかわらず数値が伸びたのは先生方のご努力と子どもたちの頑張り、保護者・地域の皆様の支えや見守りだったと思います。また、1年生の入学時前後の円滑な小中学校移行や教育相談、学習カウンセリングなどの定着も数値に表れていると思われます。昨年度、否定的だった生徒の数値も下がっています。しかし、Q-U調査における学級生活不満足群に属する生徒の約2割が「思わない」と評価しています。引き続き意欲的に学校生活が送れるための、個に配慮した対応の継続をお願いします。

II 地域との連携・協働による教育について

地域運営学校に指定されて12年目になりました。クリーン作戦、避難所運営訓練、古着回収、挨拶運動や代沢地区文化スポーツ交流会等の地域活動・ボランティア活動をとおして、地域との交流を図っています。地域貢献活動の場所を、学び舎内の小学校と幼稚園、地域内の児童館に広げ、自己の判断で参加しやすくし、「in（地域の中で）with（仲間と一緒に）for（地域のために）」の取り組みも行われています。アンケート生徒独自項目『私は、自分を支えてくれる人々に感謝し、地域に貢献していこうという気持ちが強まった。』は昨年度より下がりましたが、「とても思う」の数値は3.2%増えています。富士中プライドの醸成が数値に表れています。今年度はコロナ禍により、家庭・地域との連携・協働を図れなかったものもありましたが、次年度は、こうした活動の再開・促進を望みます。

III 「世田谷9年教育」で実現する質の高い教育活動の推進

富士中は学習の「質と量」を常に大切にしています。質としては、数学・英語における「少人数習熟度別授業」の実施、教員による授業研究・授業観察を実施し、指導方法の工夫に取り組んでいます。併せて各教科において「ICT活用授業」の推進を図っています。アンケートの生徒独自項目『漢字検定、数学検定、英語検定のためのキャリアアップ講座や放課後学習・学習相談は富士中生にとって役立つ取り組みだと思う。』では生徒の肯定的数値は81.2%で、保護者の数値は99.1%と高評価でした。量としては、授業時数の確保に努めています。更に、放課後学習・夏季補修教室やキャリアアップ講座、区土曜講習会・朝学習（1年生「コミュニケーションタイム」）等も定着しています。

世田谷9年教育にのっとり小学校3校と富士中とで計画的に小中連携が行われており、活動は継続され、安定しています。今年度から多聞幼稚園が加わり、「せたがや11+（イレブンプラス）」となりました。富士中プライドの醸成につながる連携に期待します。

今年度、生徒の学び舎に関する『学び舎の小学校に行ったり、小学生が来たりする機会がある。』のアンケート結果では、「思わない」～「わからない」の数値が3割近くで、1割程増えました。保護者の『「学び舎」の区立（幼稚園）・小学校について、情報が提供されている。』は2割程が否定的な回答でした。「富士中だより」～学び舎通信～より、情報提供が行われています。昨年1月には小中連携で仕上げたマスコットキャラクターも完成して活躍中です。12月には「小中クリーン作戦」が実施され、小学校の回りのゴミ拾いのボランティア活動もできました。今年度も「新入生児童・保護者説明会」が10月に行なわれました。富士中保護者ボランティアによる「ツアーガイド」は大好評でした。参加された富士中保護者の方々に感謝申し上げます。また、2月にはホームページにて保護者説明会の動画配信も実施されました。入学に関しての相談も受け付けています。様々な学び舎の取り組みと、情報提供の継続を今後もお願いします。

広報活動・情報提供については保護者の『本校は、学校・学年だよりなどで、保護者に情報を提供している。』の肯定的数値は94.9%でした。地域の『学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子がわかる。』は96.5%で、ともに高数値でした。しかし、保護者の『本校は、地域に情報を提供している。』では約4割が「わからない」と回答しています。保護者・地域の情報交換に工夫が必要と思われます。

コロナ禍の影響で職場体験学習は中止になりましたが、12月にキャリアコンサルタントの方に講師として来て頂き「マナー講座」を行い、働くことの意義から始まり、あいさつや言葉使いなど

社会に出た際に、最低限求められることの講義を受けました。更に、教科「日本語」の授業で電話の掛け方を学び、実際に電話をかける体験をしました。今できる事を工夫して努力されています。重点目標である『時代の要請に応じた学力向上に取り組み、学びの充実を図る』ことや『自らを律し、他者に貢献する行動力を高める』こと、これら「質と量」を大切にする取り組みは、今後も維持に努めてください。

さらに、ゲストティーチャーの講義は毎年工夫されており、進路指導（キャリア教育）に活かされています。また、『部活動は、楽しい。』の生徒・保護者の肯定的数値はともに8割近い数値に上がりました。今年度からダンス部も開設され、茶道部と花道部を統合して日本文化部になりました。今後も保護者会での部活動の説明や「部活動紹介」の実施、「仮入部期間」の設定など、より丁寧な対応をお願いします。

IV 信頼と誇りのもてる学校づくりについて

学校についてのアンケートでは、生徒の『先生たちは、生徒に分かりやすく指導している。』は、91%、保護者の『本校は、分かりやすい授業をしている。』の数値は63.4%でした。『先生は、生徒の意欲を大切にしている。』では84.5%、保護者は78%でした。生徒の評価はいずれも高評価でした。しかし、保護者は78%でどちらも低い評価でした。また、『先生たちは、生徒が相談しやすい。』は生徒66.4%、保護者71.5%でした。生徒への手厚い対応と保護者への情報提供が必要かと思われます。

安全管理については、体育館の耐震改修工事が1月に終わりました。10月の「体育交流会」は、工事の足場をかける前に小さなエリアで無事開催されました。更なる安全確保の向上に向け地域・保護者・学校の共通の認識を深めるための工夫・改善の継続を図ってください。

ホームページに関しては保護者・地域ともに昨年度よりプラスになり、8割以上でした。評価は改善されています。広報活動や情報発信に引き続き努力をお願いします。

学校図書館を読書センターと学習センターの両面で機能させていく取り組みが進みました。パソコンも設置されe-ラーニングもでき、図書館利用の生徒が増えています。しかし今年度は、コロナ禍のなかでのe-ラーニングはタブレット配布が進んでいない状況もあり、『私は家庭で宿題やe-ラーニングなどで学習をしている。』では、生徒・保護者ともに5割程の評価でした。学校運営の今後の取り組みに期待します。また、道徳地区公開講座などの土曜授業日への保護者・地域の参加促進を図る「知らせる取り組み」は今後も継続をお願いします。保護者・地域の皆様が学校に足を運ぶ事はとても重要だと思います。

V 安全安心と学びを充実する教育環境の整備

まず、地域の方々にお琴の寄贈に関して感謝いたします。子どもたちに必要な教育環境の整備に学校・保護者・地域の連携が必要不可欠です。今後ともよろしくお願ひいたします。昨年度の世田谷区の耐震診断調査の結果は「校舎棟および体育館棟とも引き続き通常の使用が可能である」でした。今年度は更に、体育館の耐震補強工事も終えています。定期的に行われている安全指導や避難訓練、地域との連携による避難所運営訓練、災害時対応などの保護者への情報提供、校内現況や衛生面など、『学校は、子どもたちにとって安全である。』の保護者の肯定率は8割以上ありますが、自然災害時の情報提供については昨年の82%から78.7%に下がりました。保護者・地域の方々とともに、安心・安全な学校づくりへ更なる努力と、密な連携をお願いします。

VI 学校生活全般について

スクールカウンセラーによる相談活動の充実を図る取り組みは定着していて、個に応じた対応がでています。「富士中だより」に毎回載っている情報は具体的で大人にも役立ちます。カウンセラーへの相談は生徒だけではなく、保護者もできます。

学校全般についての質問項目、学校行事についての『学校行事は、楽しい。』では、生徒・保護者ともに8割以上の肯定的評価でした。学校・保護者・地域に見守られ成長していく子どもたちの様子が見て取れます。「学校が好きで、友達と一緒に学べるのが楽しい」と思える環境作りや丁寧な個々への対応になお一層の尽力をお願いします。

Ⅷ 学校評価委員会の総合所見

評価委員会としては、まず先生方の日常の努力に感謝いたします。

- 1 教職員による自己評価アンケートの内容はかなり具体的で、改善策が打ち出しやすい形式になっています。また、『豊かな人間性と教育への情熱をもつ教職員』『協力し、助けあえる教職員』『自己を高める意欲の旺盛な教職員』『生徒のモデルとなる教職員』という「めざす教職員像」を打ち出し、地域の学校として意欲的に取り組んでいることがわかります。
- 2 今年度はコロナウィルスの影響で、誰もが経験した事のない現実と向き合っています。今まで当たり前だった事の大切さを痛感しているのではないでしょうか。コロナ禍に学校が再開され、制限があるなかでも、ほとんどの生徒たちは富士中が好きで、楽しく学校生活を送っていることがわかります。しかし約2割の生徒に対して丁寧な対応が必要です。また、『部活動は、楽しい。』『部活動は、達成感がある。』『学び舎の小学校に行ったり、小学生が来たりする機会がある。』『私は、家庭で宿題やe-ラーニングなどで学習をしている。』などの「わからない」という回答の多かった結果への今後の工夫と改善の努力を望みます。生徒たちにとって最大の教育環境は教師自身の姿そのものであり、人間としての豊かさや広い分野での教養を求められると思います。学習面でも「質と量の確保」をこれからも続けていただくとともに、生徒たちと向き合う時間の確保にも尽力をお願いしたいと思います。また、各御家庭・地域の皆様におかれましても、手本となる良き家庭環境・地域環境として温かく子どもたちを見守っていただきたいと思います。
- 3 昨年度から「富士中だより」に「先輩通信」が掲載されています。卒業生の体験談は進路に役立つ貴重な情報です。在校生へエールを贈るこの取り組みの継続をぜひお願いします。
- 4 学校を取り巻くいろいろな環境が、年々、整備かつ改善されていることを評価いたします。なお、継続する課題につきましては、引き続き検討をお願いします。

学校関係者評価委員会	委員長	黒木 美枝
	委員	中村 説子
	委員	森 奈弓
	委員	三島 祥子
	委員	酒井 幹郎
	委員	中村 みどり
	委員	阿部 日向子